

CITATION: Ang C, Bryant A, Barton DPJ, Pomel C, Naik R. Exenterative surgery for recurrent gynaecological malignancies. *Cochrane Database of Systematic Reviews* Cochrane Gynaecological Cancer Group, 2014 Issue 2. Art. No.: CD010449 DOI: 10.1002/14651858.CD010449.pub2.  
CRG名: Cochrane Gynaecological Cancer Group

## [最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 26 February 2013  
Clib issue No.; N/U: 2014 Issue 2; New

## アブストラクト

**背景:** 癌は世界における死因の第1位である。婦人科癌(卵巣癌、子宮癌、子宮頸癌、外陰部癌、膣癌)は、女性で最も一般的な癌である。残念なことに、疾患特性を考慮すると、一部の患者は癌が再発または進行する可能性がある。早期癌の治療は比較的明快で、罹病率および死亡率は低いが、(遺残または進行中の癌を含む)進行および再発癌の管理はそれよりはるかに複雑で、しばしば極めて広範な手術が必要となる。骨盤内容除去術では、骨盤内臓器の一部または全部を除去する。初期治療後における残遺または再発癌の内容除去術は困難で、通常周術期罹病率および死亡率は有意に高い。ただし、この治療以外では不可能であった治癒の機会を女性に提供することになる。患者を慎重に選択することによって、その患者の症状が軽減する余地もあると考えられる。再発性卵巣癌の生物学的特性は他の婦人科癌とは異なり化学療法に反応することが多く、本レビューには組み入れない。

**目的:** 再発性卵巣癌を除き(これは別のレビューの対象とする)再発性婦人科癌の女性について、内容除去術と他の治療法の有効性および安全性を比較評価すること。

**検索戦略:** 2013年2月までのCochrane Central Register of Controlled Trials (CENTRAL)、MEDLINE、EMBASEを検索した。また、臨床試験の登録リスト、学術集会の抄録、臨床ガイドラインやレビュー論文の参考文献一覧も検索し、その分野の専門家に問い合わせた。

**選択基準:** 再発性婦人科悪性腫瘍の女性に対する内容除去術と内科的治療の多変量解析および同時比較群を含む、ランダム化比較試験(RCT)または非ランダム化試験。

**データ収集と分析:** 関連すると思われる試験が選択基準を満たすかどうかを2名のレビューアが個別に評価した。同定された試験がなかったため、データの分析は行わなかった。

**主な結果:** 検索戦略では独自に参考文献1,311件が特定され、うち7件については表題および抄録から関連性が見込まれるようであったため、文献全体を検索した。しかし、レビューの選択基準を満たさなかったため、すべて除外した。

**レビューアの結論:** 再発性子宮頸部、子宮内膜、膣、外陰部悪性疾患の女性に対する内容除去術について、何らかの判断を行うためのエビデンスは見いだせなかった。内容除去術と緩和ケアを含む内科的治療を比較するためには、できれば大規模なRCT、最低限でも基本特性の不均衡を調整するために多変量解析を用いた、よくデザインされた非ランダム化試験が必要である。

## 平易な要約(Plain language summary)

## 背景

癌は世界における死因の第1位となっています。婦人科癌(卵巣癌、子宮癌、子宮頸癌、外陰部癌、膣癌)は、発展途上国において罹患率が高く、女性で最も多くみられる癌の一つです。世界的に見て、女性が65歳までに子宮頸癌、卵巣癌、または子宮癌を生じるリスクは2.2%で、外陰部および膣癌はあまり見られません。再発性卵巣癌の生物学的特性は他の婦人科癌とは異なります。すなわちそれは化学療法に反応することが多く、本レビューには組み入れません。

## レビューの検討課題

残念なことに、婦人科癌の女性の一部では、初期治療後に癌の再来(再発)や進行が見られます。癌の再発とは、治療後および癌が検出不能となった期間の後に癌が再び生じることと定義されます。早期癌の外科的治療は比較的明快であり、罹患率および死亡率も低いですが、進行および再発癌の治療にはそれよりはるかに複雑で、しばしば極めて広範な手術が必要となります。骨盤内容除去術は下部大腸(直腸にS状結腸を含むか含まない、場合によっては肛門管も含む)、膀胱、生殖器(子宮、卵管、卵巣、膣、外陰部など)、骨盤腹膜(骨盤および骨盤内臓器を覆う膜)、時に会陰部(膣および肛門周囲の外部領域)などの骨盤内臓器の一部または全部の切除および再建を伴う手術です。内容除去術は治癒を目的に、明確な組織学的周縁を含めたすべての腫瘍の切除を目指します。しばしば離断を伴う根治的手術で、術後副作用(罹患率)および死亡のリスク(死亡率)と有意に関連しており、患者および外科医の双方にとって一大事となります。しかし、それは再発癌女性に対する唯一治癒可能な治療の選択肢かもしれません。

## エビデンスの質

検索で同定された論文1,311件を2名のレビューアが個別にチェックしましたが、レビューへの組入れに相応しい関連する研究を見出すことはできませんでした。そのため、内容除去術が延命や治療関連合併症、生活の質への影響に関して、非外科的治療と比べて優れている、同等である、または劣っていると判断するのに現在利用できるエビデンスはありません。本レビューにより、再発性婦人科癌の女性を対象とした、内容除去術と非外科的治療を比較する質の良い試験の必要性が浮き彫りにされました。

(監訳 大神 英一)

翻訳公開日: 2015年5月29日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年12回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。